

関東支部秋の見学会に参加して

昭和 63 年 11 月 11 日, 12 日の両日, いずれも素晴らしい晴天に恵まれ, 日本セラミックス協会としては初めての関東支部秋の見学会が, 伊豆, 富士の名勝地として知られる富士地区まで足をのばし, 研究所, 工場, 工房, 美術館など豊富な内容で行われた。有意義なこの見学会の参加人員は, 前年より多く, 36 名であった。

<第 1 日目>

渋谷駅前, 東邦生命ビル横を東海道線の遅延のため, 定刻の 7 時 50 分より約 30 分遅れて出発, 「東名」を西へと観光バスは第一の見学先の研究所に約 1 時間 20 分で到着する。

キヤノン (株) 中央研究所 (厚木): 厚木市の効外「森の里」の一角に, 自然の緑に恵まれた約 3 万 m² のスペースに 1985 年 3 月から業務を開始した研究所がある。その建物の玄関には 3 本の柱 (自発, 自覚, 自治を意味する) があり, 地上 4 階, 地下 1 階の立派なものである。松島部長を始め 3 名のスタッフにより, ダイアモンドを基板の上に成長させたり, Er-Ba-Cu-O 系の超伝導性セラミックスなどのトピックス, 会社の概要についての説明があり, 教班に分かれて研究所内の見学が行われた。他社では余り見られない施設としては, じゅうたん敷きのブレンストーミング・ルーム, 思考に没頭することのできる思考実験室があり, 技術開発の環境づくりが十分考慮されている。コミュニケーションの広場であり, 食堂でもある森の里ホールでコーヒーを頂きながら質疑応答が行われた。キヤノンのカメラの占める割合は 20.9% で, 事務機, 光学機器が多く生産されていることも知ることができた。

東陶機器 (株) 茅ヶ崎工場 (茅ヶ崎): 神里部長より, 11 時 50 分頃, 会社の概要の説明があり, 3 班に分かれて, プレゼンテーション・ルームを含めて, 衛生陶器部門の工場見学を行った後, 昼食をとりながら「衛生陶器の出来るまで」のビデオを 13 時 20 分頃まで見せて頂いた。工場では, 洗浄力があり, 音の小さい最新式のワンピース便器が製造されていた。展示室には, 戸建住宅, ホテルゾーン, マンションゾーンなどのスペースに合わせた衛生陶器が展示されていた。ビデオは, TOTO の歴史, 衛生陶器の製造工程, 特に, 釉釉にはロボットを使用している滋賀工場の製造工程などが紹介されていた。見学を終え, 富士 IC から 10 分程度の所にある次の工場へと向かった。

三島製紙 (株) 本社工場 (富士): 安藤常務, 田岡工場長, 河野管理課長より, 15 時 20 分頃, 会社の概要, 製品の種類, 製造工程の説明の後, 教班に分かれて工場見学が行われた。薄くて強く, 不透明なたばこ用巻紙, 複写用紙などが主として生産されていて, TQC の方針, 活動方針なども明記されており, コンピューターと連結した製造が行われていた。開発も種々行われているようであり, CMC を原料とした物理的ショックを与えないでも容易に分散するペーパーや水で文学が書け, 時間が経過すると文字が消えるという紙も実験をして頂いた。17 時頃まで見学をさせて頂き, 狩野川に沿って南下, 湯の香にけむる伊豆長岡「ゑびすや」に 18 時 30 分頃到着する。

懇親会: 木村支部長, 花澤専務理事の挨拶の後, 長島前支部長の乾杯の発声で懇親会が始まり, 自己紹介も恒例どおり行われ, 楽しい一時を過ごし, 会員相互の親睦が深められた。

<第 2 日目>

「ゑびすや」を 8 時 20 分に出発, 伊豆長岡からは近い大仁

へ向かった。

東洋醸造 (株) 本社工場 (大仁): 土曜日で休日にもかかわらず, 露木生産管理部次長に御出勤願って, 10 時 30 分頃まで 2 時間近く, 会社の概要の説明, 工場見学並びに試飲センターでの試飲を行った。酒の醸造より, 製菓, 食品部門に力を入れておられ, ペニシリンは国内より中国へ多量に輸出されているとのことである。醸造は機械化されたものの杜氏は秋田県から来られているようであり, 米の精白の度合で, 一般酒, 一級, 特級, 吟醸酒に分けられていることも知ることができた。特に製菓関係では, 関係省庁の認可も必要であり, コンピューターによる省力化が進められており, 研究, 安全性に力を入れているようである。試飲センターでは, 担当者から面白く, お酒の説明があり, 四十数度のアルコールを含むウイスキーから, ほとんどアルコール分のない卯酒まで, 数多く準備された。ここには, 数多くの見学者が来るようで, 酒, わさびの粕漬, アイスクリュー入りのパンなど直売されていた。

洋らんセンター (大仁): 東洋醸造 (株) のすぐ近くにある洋らんセンターで, まず, わさび漬の製造工程を見学した。わさびはカッターで切断され, 酒粕, 味噌等と混合して製造されていた。次に, 明治以降, 日本に渡来して, 色, 形などが千差万別である洋らん, 熱帯植物, 果樹などを見学後, 洋蘭飯店で中国料理に舌鼓を打ち, 12 時 45 分にここを出発して, 三島市をとおり, 次の目的地に向かった。

ベルナル・ビュッフェ美術館・井上靖文学館 (長泉): 世界で唯一のビュッフェの美術館であり, 約 800 点を所蔵している。フランスの巨匠ビュッフェは, 10 才にして絵を志し, 今もなお描き続け, 現在, パリで, ビュッフェ近作展が開催されている。井上靖文学館は, ビュッフェ美術館と隣接した純日本風の建物であり, 井上先生の書かれた全著書, 各国語に翻訳した著書, 資料文献, 中国文化交流の写真パネルなどが収蔵されていた。井上先生の原作の「敦煌」も映画化され, 高齢にもかかわらず, 今も仕事に専念されているようである。13 時 20 分, ここを出発して, 最後の見学先である工房へ 14 時 15 分に到着する。

白台陶房 (富士溶岩焼窯元) (富士宮): 小田歸山氏により, 製造工程の説明があり, 工房, ショールームの見学を行った。本体の陶土は, 瀬戸, 多治見地区に依存しているが, 釉については, 富士山の溶岩 (特に赤い軽石), 木灰, 金属の酸化物が使われた独自の天目陶器である。金属光沢, あるいは, 銅を選炎で焼成した赤色釉を特徴とするものであって, 歸山溶岩釉天目陶器と呼称されている。日展にも数回入選されており, ここまで成功されるには, なみなみならぬ苦勞があったようである。ここを 15 時に出発する。

<おわりに>

工房を後に JR 富士宮駅で 6 人が下車, 渋谷には珍しく予定より 20 分も早く, 18 時 10 分頃に無事到着した。

今回の見学会の企画, 準備, 2 日間にわたって終始, お世話頂いた木邑先生を始め関東支部の幹事各位, 見学に協力して頂き, 心から歓待をして頂いた研究所, 工場の皆様, 並びに, 見学会に関係された皆様に衷心感謝する次第である。また, 日本セラミックス協会関東支部見学会の所期の目的が達成されたことは, 参加者の一員として御同慶にたえない。(長谷川保和)